

姫天だより

ギリシャ神話では、月の女神アルテミスの侍女たちの中にカリストという娘がいました。カリストは活発な娘で化粧もあまりしないで、野山で狩をするのが好きでした。その姿を見たゼウスは彼女を好きになり、アルテミスの姿に化けてカリストに近づき思いを遂げます。やがて美しい男の子が生まれるのですが、ゼウスの妻ヘラの怒りをかい、カリストは醜い熊の姿に変えられてしまいます。それから十数年が過ぎ、何も知らないカリストの息子アルカスは、立派な若者に成長し母親の血を引いて狩の名手になっていました。

ある日アルカスは森へ狩に出かけ、おおぐまと出会います。それを自分の母親だとは知らない彼は、よい獲物だと思い心臓めがけ矢を射掛けようとした瞬間、ゼウスは母親殺しの罪を犯させまいと、アルカスも熊に変え、二人を天に上げ星座にしたといわれています。

このお話にはまだ続きがあるのですが、それは観望会でお話します。

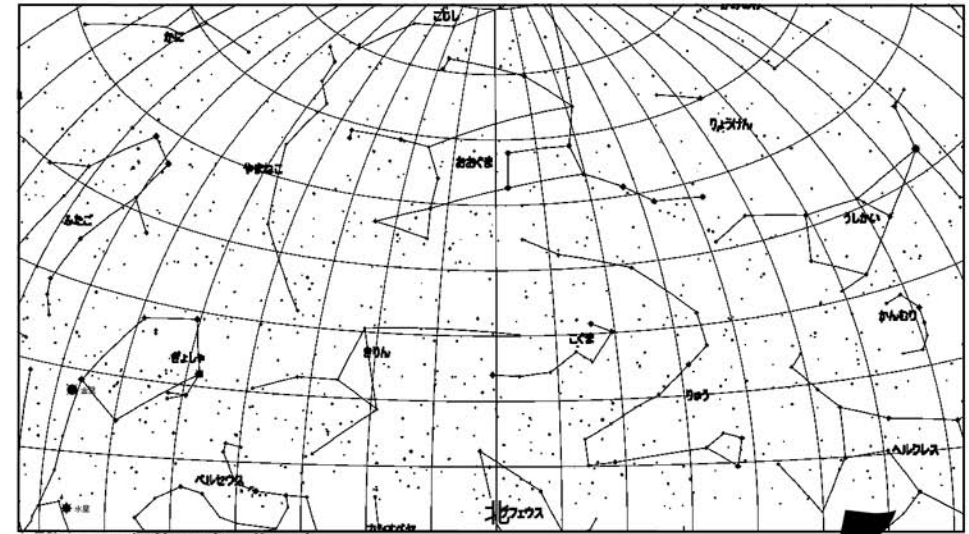
★今月のテーマ二重星を観る会

カストル、コルカロリ、アルギレル、アルコル・ミザール春の星座の中には二重星がたくさん見られます。私たちと一緒に二重星巡りをしてみませんか？

春の星座は今月の星座“おおぐま座”にある北斗七星から探します。北斗七星を見つけれられるようになると、方角を知ったり、北の目印北極星や春の1等星を見つけることができます。その1等星から、分かりやすい形を結んで、星座を見つけることができます。

みなさんも私たちと一緒に春の星座をさがして見てみませんか。

新型コロナウイルス感染症が収まって早く観望会が開けるようになるといいですね。



5月15日午後8時の北の空

5月号
2020

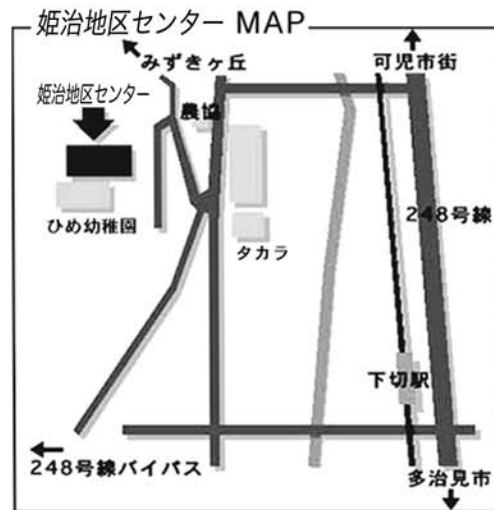
-次回の天文クラブ-

●5月の星を見る会

5月の例会はコロナウィルス対策により中止になりました。

●6月の星を見る会

6月20日(土)午後7時30分より
二重星の観察
春の星座教室



JR太多線下切駅より徒歩13分
2020年5月1日発行

※観望会についてのお問い合わせは
姫治地区センター (62-0104) まで

姫治地区センター
岐阜県可児市下切 1530
☎0574-62-0104
姫治天文台
<http://himeziten.yu-yake.com/>

★今月の星座 おおぐま座

5月の初旬午後8時ごろに、北の空高く舞い上がる“おおぐま座”は北斗七星あたりまでが周極星になっていますから、ほぼ1年中見えるのですが、北極星のうえで逆立ちしたように見える5月ごろが一番見やすくなります。

柄杓の形をした北斗七星は、誰もが名前を知っていると思いますが、星座の名前ではなく、“おおぐま座”のお尻としっぽの部分に当たります。

北の目印北極星のを見つけ方は、柄杓の杓の先端の星β星からα星を結んでその長さを5倍のはしたところで見つかります。皆さんも探して見てください。

北斗七星の星の名前は、杓の先から順にα(アルファ)星はドウベ(おおぐま)、β(ベータ)星はミラク(腰)、γ(ガンマ)星はフェクダ(また)、δ(デルタ)星はメグレス(つけ根)、ε(イプシロン)星はアリオト(尾)、ζ(ゼータ)星はミザール(腰布)、η(エータ)星はベナトナシュ(棺台の娘たち)の名前と意味がついていますが、ζ星のミザールをよく見ると、すぐそばに小さな4等星がちょこんとついてます。この星は肉眼2重星でアルコル(乗り手)という名前がついています。これは、ミザールを馬に見立てたところからきています。また、アルコルは昔目の検査に使われたところから、アル・サダク(テスト)と呼ばれることもあります。